

2026 年 10 月 30 日
東京海上日動火災保険株式会社

新・本店ビル 大船渡市の林野火災で被災した木材の活用 ～被災木材の有効活用を通じ、森林の再生と地域の復興に貢献～

東京海上日動火災保険株式会社(取締役社長 城田 宏明、以下「当社」)は、2028 年度の竣工を目指して建設中の新・本店ビルにおいて、2025 年に岩手県大船渡市で発生した林野火災により被災した木材を原料として製造された合板を使用することをお知らせいたします。

本合板は、林野火災で被害を受けた木材を有効活用して製造されたもので、新・本店ビルの建設現場が国内で初めての採用事例となります。

1. 背景

2025 年 2 月に岩手県大船渡市で発生した林野火災では、広範囲の森林が被害を受け、多くの被災木が発生しました。

被災した森林の再生には、被災木の伐採・搬出と再造林を進める必要がありますが、被災木の放置は二次災害や病害虫の発生、再造林作業の妨げとなるおそれがあります。

そのため、被災木の有効活用を進め、森林整備や再造林につなげることが重要となっています。

当社が 2028 年度の竣工を目指して建設を進める新・本店ビルでは、国産木材を積極的に活用することで木材の需要を生み出し、伐採・加工・運搬などに関わる地域の雇用創出や経済活性化につながることを期待しています。また、木を植え、育て、伐採し、再び植えるという森林資源の循環を支えることで、森林の保全や水源の維持など、循環型社会の実現に寄与することを目指しています。

こうした考え方にに基づき、当社は被災木の新たな活用先を確保し、被災地域の復興を後押しするため、新・本店ビルの建設において、大船渡市の林野火災で被災した木材を原料とする合板を使用することとしました。

2021 年 9 月 30 日：新・本店ビル計画のコンセプトについて

(https://www.tokiomarinehd.com/newsroom/release/l6guv3000000dfb8-att/20210930_New_Headquarters_Building_j.pdf)

2022 年 8 月 1 日：新・本店ビルのデザインについて

～国産木材を使い木の使用量が世界最大規模となる高さ 100m の「木の本店ビル」へ～

(https://www.tokiomarinehd.com/newsroom/release/l6guv3000000frg1-att/20220801_j.pdf)

2025 年 10 月 28 日：循環型社会の実現に向けた新・本店ビル植林プロジェクトの開始

(https://www.tokiomarine-nichido.co.jp/company/release/pdf/251028_01.pdf)

2. 被災木材の活用概要

大船渡市の林野火災で被災した木材を原料として製造された合板を、新・本店ビル建設時の仮設事務所および新・本店ビル 5 階の床下地に使用します。

仮設事務所の床には約 43 m³を使用しており、今後、新・本店ビル 5 階の床下地として約 50 m³を使用する予定です。

本合板は 2026 年 6 月から出荷が開始されたもので、新・本店ビル建設現場が国内で初めての採用事例となります。

使用箇所	使用量	使用状況
建設現場の仮設事務所の床	約 43 m ³ (出荷量ベース)	使用済み
新・本店ビル 5 階の床下地	約 50 m ³ (予定)	今後使用予定
合計	約 93 m ³	



TEAM 森林再生大船渡 提供

3. 今後について

当社は、継続的な植林活動を通じて森林資源の循環や地域社会の発展に貢献するとともに、ステークホルダーの皆さまと持続可能な未来の実現に向けた取り組みを進めてまいります。

以上